

(別紙2-1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25 年 12 月 11 日

【事業所概要 (事業所記入)】

事業所番号	4270300512		
法人名	有限会社 清福祉事業		
事業所名	グループハウス およりの郷		
所在地	〒855-0864 島原市秩父が浦町丁 3543 番地 13		
自己評価作成日	平成 25 年 11 月 1 日	評価結果市町受理日	平成 25 年 12 月 13 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要 (評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目七二一七 島原商工会議所一階
訪問調査日	平成 25 年 11 月 26 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

規則にこだわらず、介護理念のように「のどか・のんびり・ゆったり」の実践に努め、地域に根ざした施設の実現を目標としている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点 (評価機関記入)】

「およりの郷」の語源となった「およんなさい」の言葉通り、職員のあたたかな笑顔で出迎えられゆったりと過ごすことができるホームである。入居者が主役となり、自宅での生活リズムをそのまま継続しながら時間に縛られない支援が実践され、入居者が寛ぎながら思い思いの時間を過ごされている。代表者は高齢者、障害者が共に現代社会において自然に生活しやすい環境作りへと尽力され、当ホームでは身障者を積極的に雇用し地域の社会福祉に大きく貢献されている。職員一人一人が入居者に真摯に向き合い、入居者の安らぎや笑顔を引き出す支援を実践されている姿勢に、大きく期待が出来るホームである。
--

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基に本人の意向を尊重してケアを行い、スタッフ勉強会の参加により更なる知識を技術を身につけ、安心、満足していただけるように取り組んでいる。	ホーム理念をもとに入居者の意向に添った介護を実践すべく、食事時間や入浴時間等時間に縛られず自然の流れで生活ができるよう支援がなされている。入居者が食堂でゆっくりと会話を楽しみ過ごされる姿から、まさに生活の場であることが窺われた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際に挨拶をしたり、立ち話をするなどして、交流の場を多くもてるよう気をつけている。	ホームの避難訓練では近隣住民と共に消火訓練を行っているほか、日頃から職員より地域の高齢者世帯に声かけを行うことで屈託のない関係が築けており、地域からも頼られる存在となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩の際に挨拶をしたり、立ち話をするなどして実際入居者様と接して来ているが、職員研修などの資料をご近所にも配布できたらと考える。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回開催されている中での意見は有効に活、介護に反映している。	会議では行事予定や入居者の状況報告がなされ、参加者からも自由な提案や率直な質疑応答がなされている。会議の開催を行事に重ねる事もあり実際に職員が入居者と接する様子を見て頂き生活の様子を共有し感想を頂いている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通し情報の開示、意見の交換を行っている。	代表者は島原半島グループホーム連絡協議会の副会長を務められており、ホームの事はもちろん、島原半島の事業所の指導役として広域圏と事業所を繋ぐパイプ役としても尽力されている。	

6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	資料を準備し、職員が知識、意識の共有が出来るようにしている。当ホームにおいては、身体拘束は行われていない。	身体拘束は行わない方針であり、細かな観察力と不穩の理由を職員で話しあい、本人の不安を取り除くよう支援がなされている。帰宅願望が強かった入居者を毎日同じ時間に自宅へ送迎し本人が納得できるまで見守り続けた経験談もあった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料を準備し、職員が知識、意識の共有が出来るようにしている。当ホームにおいては虐待の実態は無い。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などで学んでいる職員もいるが全員ではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項等の説明を十分に行ない、解約、改定の際も理解・納得されるよう十分説明を行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などご家族へ状態をつたえたと共にご家族の希望、入居者様の希望をつたえ意見を引き出すことが出来るよう取り組んでいる。	家族からの意見はミーティングで職員へ申し送られ、家族の意見や要望に添えるように努力されている。遠方で面会が困難な家族に対しては状況が伝わりにくい不安を汲み取り、交換日記や写真の送付をすることでより安心へと繋げたいと具体策を検討中であった。	意見箱として準備された家族連絡ノートがうまく活用されていない悩みや、家族からの申し出も職員へ口頭伝達に留まる傾向にあるため、遠慮なく意見を出しやすい環境や意見の集約方法を検討し、また意見を記録に残す事でより密な信頼関係を築かれていくことを今後期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や毎日のミーティングの際、職員の希望や業務に対する要望を代表者、管理者に伝え職場環境の改善につなげられている。	職員の職歴が生かされ行事の立案や盛り上げ役として力を発揮し、入居者への活気へと繋がられている。職員からはミーティングでも自由な提案が出され目標に向かってホームが後援し、職員全体で取り組む姿勢がある。	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者は職員研修や勉強会と通し、意識付け、モチベーションの向上を図っている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は職員研修や勉強会を通し、レポートの提出などで職員個人づつの意識や思いを知らるように働きかけがなされている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>島原半島GH連絡協議会に参加して、研修、勉強会に多数の出席を呼びかけ、サービスの質の向上がなされるよう情報交換や講義などで得た知識を実践に活かしている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人様と会話する機会を多くし、個別に行動、言動を記録するなど、職員間の情報の共有を働きかけ本人様にとって行き届いたサービスの提供がなされるようにしている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービス内容や理念を伝えると共に希望、思いの聞き取りがなされている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>サービス内容や理念を伝えると共に希望、思いの聞き取りがなされ適切なサービスが受けられるよう働きかけがなされている。</p>		

18	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	極力同じ目線で共同生活者としての姿勢はもたれているが、建物などのハード面でのバリアフリーだけではなくソフト面でのバリアフリーでの関係作りに努めている。		
19	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様を支える存在として関係機関と連携をとり、ご家族の心的負担の軽減を図ると共にご家族の協力も重視したケアを心がけている。		
20	8 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている	本人様が本人らしさを継続できるよう生活歴などを基に調度品の持ち込みなどの環境整備をはかりご家族様の協力を	入居者の友人や知人の面会があった際は、居室でゆっくりと過ごして頂けるよう配慮されているほか、家族からの外出の申し入れも積極的に協力し、できるだけ本人らしく過ごせるよう支援がなされている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中での入居者様同士の関係はおおむね把握できている。サービスを提供し続ける者として、より楽しみをもって共同生活されるような働きかけがなされている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後であっても、ご家族様から相談していただける、相談しやすいような関係作りが心がけられている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の会話、入居者様同士の会話の中から思いや希望を汲み取れるような意識付けがなされている。	日頃から入居者と接する中で本人の望む事ややりたいことを汲み取り、職歴や生活歴の中からその方の嗜好品や趣味、また生きがいとなるものを見つけ支援に繋がられている。食後に入居者が役割を担い、共に支え合って生活されている姿が印象的であった。	

24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	関係機関からの情報プラス、本人様、ご家族様からのお話を基に生活歴の把握に努められている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のミーティングの中で、本人様が『今』必要とされているケアが何であるかの検討、状態の把握の働きかけがなされている。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、ご家族様の意向を基に居室担当者、計画作成者が共同で評価と作成、ご家族様に対しても、それぞれの評価、説明、同意が行われている。	入居者の担当職員が期間毎にアセスメントを行い、職員全体で対象者の状況を話し合いながら介護計画の立案がなされている。日々の記録には表情や心身の状況が詳細に記載され、計画見直しの材料としても生かされている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	人目で入居者様の一週間の生活の様子が分かり記入しやすい、見やすい書式が使用され、職員の情報共有がなされており、居室担当者、計画作成担当者、その記録を基に、評価、計画の作成をおこなっている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じご家族、医療機関との連携を図りながら必要かつ柔軟な支援を行っている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じご家族、医療機関との連携を図りながら必要かつ柔軟な支援を行っている。		
30	11 ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	なじみのある医療機関での受診支援を基に本人様の『今』を支える為の検討、医療機関の選択がなされている。	事業所支援により入所以前のかかりつけ医がそのまま継続され、家族への状況報告も細かになされている。夜間の対応に関しても医療機関との連携を密に行う事で適切な医療を受けることができ、本人や家族の安心へと繋がられている。	
31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護、介護の協働が充実しており、その時その時の入居者様に必要なケアが行われている。		

32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>介護、看護サマリーでの情報提供や面会時の医療機関関係者との対話による情報交換がなされており、時間が許す限りではあるが面会にも行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>「看取りについての指針」は定められており、入居契約時にご家族様への説明はなされているが、職員間での早い段階からの検討・方針の共有には至っていない。</p>	<p>複数の協力医と関係を構築し、これまでに入居者と家族の意向に沿った支援を実施されている。重度化に対応する研修に参加し、知識を深め、医師や訪問看護師の協力を得ながら職員全体で看取りに対し取り組む姿勢がある。夜間緊急時は職員がすぐに駆け付ける応援体制作りもあった。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時の対応はマニュアルとして挙げられてはいあるが訓練の定期的な実施はなされておらず、全職員が実践力を身につけているとは言えない。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署立ちたいの下、消火、避難訓練がなされている。</p>	<p>定期的な火災による避難訓練の実施のほかに週1回事業所内の自主点検を行い、日頃から防災意識を高く持たれている。緊急体制マニュアルを避難訓練毎に再確認し、有事の際の役割分担も明確にされている。</p>	<p>現在火災に対する避難訓練の実施に留まっている現状にあるため、より災害に対する備えを強固にするために地域に応じた具体的な自然災害に対する取り組みを検討されることを今後期待します。</p>

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修会や勉強会と通し入居者様と共同生活を送るものとして適切な対応がなされている。	日頃から入居者に接する態度や言葉遣いが気になった際にはお互いに注意し合い、誇りを傷付けないように注意している。排泄介助時には職員間で言葉や視線などを用い他の入居者に気付かれないよう自然な誘導を行うようにしている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に本人様の意向を確認、実現できるような働きかけがなされている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、食事、入浴、就寝時間など入居者様の生活ペースに合わせるようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	随時、希望は受け付けている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事や食事準備など出来る範囲で一緒に行っている。	そうめん流しなど季節に応じた外食や、よもぎ餅や饅頭作りなど手作りおやつ支援もあり、利用者の楽しみとなっている。利用者から献立のリクエストにも対応され、アレルギーのある人には代替え食の提供もある。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量の管理は一目で分かるよう表へ記入、管理されている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、声かけ行い口腔ケアを勧めている。	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	必要な方には、その人の排泄パターンにより適切な時間、時間で誘導を行い、極力トイレで排泄できるよう勧めている。	入居者ごとに時間誘導を行いオムツ着用が本人にとっての苦痛と捉え、トイレでの排泄を目標に取り組みされている。オムツ着用だった入居者がトイレで排泄できるようになり、本人にとって行動範囲が広がった事例もあった。排泄に対し積極的な取り組みが感じられた。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ薬に頼らず食物繊維の多い、食べ物や牛乳、散歩や体操を勧めている。	

45	<p>17 ○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>本人様の希望を重視して入浴日は決めず、チェックシートで確認、把握、出来ている。</p>	<p>入居者によっては早い時間の入浴や、趣味を終えてからの入浴など様々で、一日のリズムを壊さないよう本人が希望する時間帯での入浴が可能である。家庭での生活リズムをそのまま継続することができ入居者の安らぎへと繋がっている。</p>	
46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>寝る時間は設定していない。眠くなられた時に休んでいただいている。寝具については本人様の使い慣れたものを使用いただいている。</p>	/	/
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>効能書かきを全員分準備して、マニュアルを置き、意識付けを行っている。</p>	/	/

48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>畑仕事に詳しい方、食器洗いや洗濯たみなど得意な方とそれぞれいらっしやるので、その方を中心として行っていたりしている。ドライブや塗り絵など他の分野の楽しみ提供にも心がけている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>買い物、ドライブ、お墓参り、足湯など、その時、その時の希望に対応できるように心がけている。</p>	<p>気候をみながら積極的な外出を取り入れ、地元の公園や観光名所を巡り季節の移ろいを楽しまれている。日常的におやつや日用品の買い物を楽しむ入居者もおられ、本人の希望にそった支援がなされていた。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自身で管理されている方は少ないが、持っていることで安心される方もおられる為、すべて預かることはしていない。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話は事務所の電話を押し、間違えられないよう職員が見守りなが行っていたりしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>その季節の花を飾ったり、季節を感じていただけるような演出を行っている。</p>	<p>入居者がゆったりと過ごされる共用空間は、職員により整理整頓がなされ快適で気持ちよく過ごすことができる。行事毎のスナップ写真がコメントと共に廊下に掲示されており、入居者の活き活きとされた笑顔が明るい家庭を思わせる、温かみを感じられる空間作りとなっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用空間にファーを置いたり、畳を敷き気楽にくつろげる空間を提供している。</p>		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力の下、ご本人様が、よりご本人らしく暮らせる空間作りに気を配ってる。	思い思いの調度品が持ち込まれ、入居者の個性が感じられる居室作りとなっている。ポットや食器棚を持ち込み自分の好きなタイミングで寛ぎながらコーヒーを楽しめる入居者もおられ、暮らしの場である様子が窺われた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとり出来ること、わかることの役割をもたれているが全員ではない。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基に本人の意向を尊重してケアを行い、スタッフ勉強会の参加により更なる知識を技術を身につけ、安心、満足していただけるように取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際に挨拶をしたり、立ち話をするなどして、交流の場を多くもてるよう気をつけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩の際に挨拶をしたり、立ち話をするなどして実際入居者様と接して来ているが、職員研修などの資料をご近所にも配布できたらと考える。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回開催されている中での意見は有効に活、介護に反映している。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通し情報の開示、意見の交換を行っている。		

6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	資料を準備し、職員が知識、意識の共有が出来るようにしている。当ホームにおいては、身体拘束は行われていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料を準備し、職員が知識、意識の共有が出来るようにしている。当ホームにおいては虐待の実態は無い。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などで学んでいる職員もいるが全員ではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項等の説明を十分に行ない、解約、改定の際も理解、納得されるよう十分説明を行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などご家族へ状態をつたえると共にご家族の希望、入居者様の希望をつたえ意見を引き出すことが出来るよう取り組んでいる。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や毎日のミーティングの際、職員の希望や業務に対する要望を代表者、管理者に伝え職場環境の改善につながられている。		

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者は職員研修や勉強会を通し、意識付け、モチベーションの向上を図っている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は職員研修や勉強会を通し、レポートの提出などで職員個人づつの意識や思いを知らるように働きかけがなされている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>島原半島GH連絡協議会に参加して、研修、勉強会に多数の出席を呼びかけ、サービスの質の向上がなされるよう情報交換や講義などで得た知識を実践に活かしている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人様と会話する機会を多くし、個別に行動、言動を記録するなど、職員間の情報の共有を働きかけ本人様にとって行き届いたサービスの提供がなされるようにしている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービス内容や理念を伝えると共に希望、思いの聞き取りがなされている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>サービス内容や理念を伝えると共に希望、思いの聞き取りがなされ適切なサービスが受けられるよう働きかけがなされている。</p>		

18	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	極力同じ目線で共同生活者としての姿勢はもたれているが、建物などのハード面でのバリアフリーだけではなくソフト面でのバリアフリーでの関係作りに努めた		
19	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様を支える存在として関係機関と連携をとり、ご家族の心的負担の軽減を図ると共にご家族の協力も重視したケアを心がけている。		
20	8 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	本人様が本人らしさを継続できるよう生活歴などを基に調度品の持ち込みなどの環境整備をはかりご家族様の協力		
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中での入居者様同士の関係はおおむね把握できている。サービスを提供し続ける者として、より楽しみをもって共同生活されるような働きかけがなされている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後であっても、ご家族様から相談していただける、相談しやすいような関係作りが心がけられている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の会話、入居者様同士の会話の中から思いや希望を汲み取れるような意識付けがなされている。		

24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	関係機関からの情報プラス、本人様、ご家族様からのお話を基に生活歴の把握に努められている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のミーティングの中で、本人様が『今』必要とされているケアが何であるかの検討、状態の把握の働きかけなされている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、ご家族様の意向を基に居室担当者、計画作成者が共同で評価と作成、ご家族様に対しても、それぞれの評価、説明、同意が行われている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	人目で入居者様の一週間の生活の様子が分かり記入しやすい、見やすい書式が使用され、職員の情報共有がなされており、居室担当者、計画作成担当者、その記録を基に、評価、計画の作成をおこなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じご家族、医療機関との連携を図りながら必要かつ柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じご家族、医療機関との連携を図りながら必要かつ柔軟な支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	なじみのある医療機関での受診支援を基に本人様の『今』を支える為の検討、医療機関の選択がなされている。		

31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護、介護の協働が充実しており、その時その時の入居者様に必要なケアが行われている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護、看護サマリーでの情報提供や面会時の医療機関関係者との対話による情報交換がなされており、時間が許す限りではあるが面会にも行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りについての指針」は定められており、入居契約時にご家族様への説明はなされているが、職員間での早い段階からの検討・方針の共有には至っていない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応はマニュアルとして挙げられてはいあるが訓練の定期的な実施はなされておらず、全職員が実践力を身に付けているとは言えない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ちたいの下、消火、避難訓練がなされている。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修会や勉強会を通し入居者様と共同生活を送るものとして適切な対応がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に本人様の意向を確認、実現できるような働きかけがなされている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、食事、入浴、就寝時間など入居者様の生活ペースに合わせるようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	随時、希望は受け付けている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事や食事準備など出来る範囲で一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量の管理は一目で分かるよう表へ記入、管理されている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、声かけ行い口腔ケアを勧めている。	

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	必要な方には、その人の排泄パターンにより適切な時間、時間で誘導を行い、極力トイレで排泄できるよう勧めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ薬に頼らず食物繊維の多い、食べ物や牛乳、散歩や体操を勧めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人様の希望を重視して入浴日は決めず、チェックシートで確認、把握、出来ている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝る時間は設定していない。眠くなられた時に休んでいただいている。寝具については本人様の使い慣れたものを使用いただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	効能書かいを全員分準備して、マニュアルを置き、意識付けを行っている。		

48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事に詳しい方、食器洗いや洗濯たみなど得意な方とそれぞれいらっしやるので、その方を中心として行っていただいている。ドライブや塗り絵など他の分野の楽しみの提供にも心がけている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、ドライブ、お墓参り、足湯など、その時、その時の希望に対応できるように心がけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で管理されている方は少ないが、持っていることで安心される方もおられる為、すべて預かることはしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は事務所の電話を押し、間違えられないよう職員が見守りながら行っていただけしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その季節の花を飾ったり、季節を感じていただけるような演出を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にファーを置いたり、畳を敷き気楽にくつろげる空間を提供している。		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力の下、ご本人様が、よりご本人らしく暮らせる空間作りに気を配ってる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとり出来ること、わかることの役割をもたれているが全員ではない。		
V アウトカム項目					
56		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の	2, 利用者の2/3くらいの
				3, 利用者の1/3くらいの	4, ほとんど掴んでいない
57		利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある	2, 数日に1回程度ある
				3, たまにある	4, ほとんどない
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が	2, 利用者の2/3くらいが
				3, 利用者の1/3くらいが	4, ほとんどいない
59		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が	2, 利用者の2/3くらいが
				3, 利用者の1/3くらいが	4, ほとんどいない
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が	2, 利用者の2/3くらいが
				3, 利用者の1/3くらいが	4, ほとんどいない
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が	2, 利用者の2/3くらいが
				3, 利用者の1/3くらいが	4, ほとんどいない
62		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が	2, 利用者の2/3くらいが
				3, 利用者の1/3くらいが	4, ほとんどいない
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と	2, 家族の2/3くらいと
				3, 家族の1/3くらいと	4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない